

## 令和元年6月 報道機関との定例懇談会 要旨

### □ 情報提供項目

ほうれん草ラガー完成お披露目会、客船「ぱしふいっくびいなす」久慈港寄港、いきいきシニアスポーツ大会、市営魚市場水揚げ表彰、平庭闘牛大会の事故について市長が説明したほか、6月の行事予定、イベント情報などについて報道機関にお知らせしました。

### □ 記者との質疑応答

市：平庭闘牛大会でケガ人が出て、ドクターヘリで八戸市民病院に搬送された。脾臓が破裂し摘出したとのことだが、命には別状ないと伺っている。安全対策については、関係者の気の緩みがあった。対策をしっかりとやっていかなければならない。

記者：姉妹都市クライペダを訪問されていたが、久慈市はオリンピックありがとうホストタウンとなり、現地でもオリンピック関連のイベントに参加されたとのことだった。今後の交流は、どのようにしていくか、展望について教えてください。

市：産業振興面も含めて交流を深めていきたいと話している。大歓迎を受けた。久慈からは、柔道指導者4人が参加したが、柔道交流では、小学生から大人まで、クライペダの周辺の国からも参加いただいた。柔道をする子ども達の交流が相互にできるのではないかと話しいただいた。文化交流では、書道と茶道を行ったが、たくさんの方に参加いただき、小学生の授業の一環でも来ていただいた。在クライペダ日本国大使と期間中、3度お話をさせていただいた。久慈市とクライペダの30年前からの歴史などお話をいただき、大使館も力を入れていただいた。クライペダは、非常にきれいな街並みであり、ロシアから占領され、30年前に独立を勝ち取ってきた歴史のあるまちである。今回は、5年後、10年後と言わず、頻繁に交流ができればよい。

市：名取市で開催された潮風トレイル全線開通記念式典に参加した。トレイルでは単に歩くだけでなく、地域での交流が深まることを期待している。福島全体、いわき市までつないでほしいという声があった。

記者：地域ごとの区間の分け方に変更あるか。

市：久慈は、田野畑までの区間にあり、ビジターセンターが北山崎にある。連携については特段の変更、動きはない。

トイレの設置が大事であり、環境省にお願いしている。また、地元の協力がいない

と行政だけでは対応が難しい。

記者：秋のジオパーク再認定審査に向け、沿岸各地区と連携しながら、どう盛り上げていくのか。

市：久慈は以前からボランティア養成講座を行い、先進と言われているがまだ不足と思っている。久慈でティラノサウルスの恐竜の化石が発見された。ジオに密着する話題である。市民の皆さんに関心をもって理解いただきたい。勉強会などやっていきたい。

8月に早稲田大学の発掘調査隊が現地に入るので、支援体制を整えていきたい。ジオパークが誘客、交流人口の拡大につながるので、「ティラノサウルス」＝「久慈」でアピールするように考えていく。